

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2012 年 11 月 1 日(01.11.2012)



(10) 国際公開番号
WO 2012/147846 A1

- (51) 国際特許分類:
A45D 44/22 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2012/061199
- (22) 国際出願日: 2012 年 4 月 26 日(26.04.2012)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2011-100000 2011 年 4 月 27 日(27.04.2011) JP
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): ユニ・チャーム株式会社(UNI-CHARM CORPORATION) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分 1 8 2 番地 Ehime (JP).
- (72) 発明者; および
- (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 池田 祐子 (IKEDA Hiroko) [JP/JP]; 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 田中

嘉則(TANAKA Yoshinori) [JP/JP]; 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP).

(74) 代理人: 岩田 哲幸, 外(IWATA Tetsuyuki et al.); 〒4600003 愛知県名古屋市中区錦二丁目 1 9 番 1 9 号 広小路センタープレイス 3 階 池田・岩田国際特許事務所 Aichi (JP).

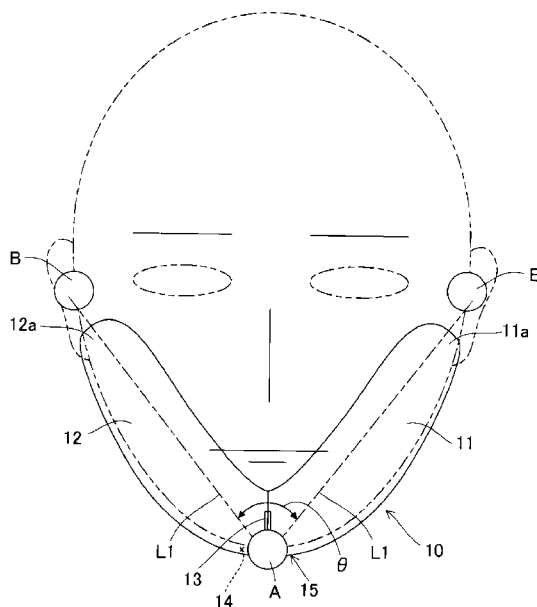
(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

[続葉有]

(54) Title: FACE SHEET

(54) 発明の名称: フェイスシート

[図1]



(57) Abstract: [Problem] To provide a technique that, in a face sheet that contains a nonwoven fabric having water retention properties and that can be applied to the face of a human, is effective for increasing a lift-up effect of the face of the human. [Solution] The face sheet (10) contains: a base region (15) that can be applied to the chin region of a human; and a pair of sheet-configuring pieces (11, 12) that each extends protruding from the base region (15). The pair of sheet-configuring pieces (11, 12) extend sandwiching the base region (15), forming an angle (θ) with respect to one other, and have a pre-determined stretchability in the direction of extension.

(57) 要約: 【課題】 保水性を有する不織布を含み、人間の顔に貼付可能なフェイスシートにおいて、当該人間の顔のリフトアップ効果を高めるのに有効な技術を提供する。 【解決手段】 本発明に係るフェイスシート 10 は、人間の顎領域に貼付可能な基部領域 15 と、基部領域 15 からそれぞれ突状に延出する一対のシート構成片 11, 12 と、を含み、一対のシート構成片 11, 12 は、基部領域 15 を挟んで互いに角度 θ をなして延出するとともに、当該延出方向に所定の伸縮性を有する。

WO 2012/147846 A1



(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR),

OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

明 細 書

発明の名称：フェイスシート

技術分野

[0001] 本発明は、人間の顔に貼付可能なフェイスシートに関するものである。

背景技術

[0002] 特開 2 0 1 0 - 2 8 1 0 0 3 号公報には、人間の顔に貼付可能なフェイスシートが開示されており、特に不織布に化粧料を含浸させた被覆シートを用いてフェイスシートを構築する点が開示されている。一方で、この種のフェイスシートにおいては、人間の顔のリフトアップ状態を所望のレベルに維持したいという要請がある。しかしながら、特許文献 1 には、人間の顔の実際の形状を、フェイスシートによる顔のリフトアップ効果に反映させる具体的な構造の開示はない。従って、この種のフェイスシートの設計に際しては、前記要請に応えるべく、人間の顔の所望のリフトアップ効果を得るための具体的な構造を実現することが必要となる。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献 1：特開 2 0 1 0 - 2 8 1 0 0 3 号公報

発明の開示

発明が解決しようとする課題

[0004] そこで、本発明は、かかる点に鑑みてなされたものであり、保水性を有する不織布を含み、人間の顔に貼付可能なフェイスシートにおいて、当該人間の顔のリフトアップ効果を高めるのに有効な技術を提供することを課題とする。

課題を解決するための手段

[0005] 上記課題を達成するため、各請求項記載の発明が構成される。

[0006] 本発明にかかるフェイスシートは、保水性を有する不織布を含み、人間の顔に貼付可能なフェイスシートであって、基部領域及び一対の延出領域を含

む。保水性を有する不織布は、フェイスシートの全部又は一部を構成することができる。基部領域は、人間の顎領域に貼付可能な領域として構成される。一对の延出領域は、基部領域からそれぞれ突状に延出する領域として構成される。各延出領域は、典型的には直線状又は曲線状に延在することができる。特に、この一对の延出領域は、基部領域を挟んで互いに所定角度をなし延出するとともに、当該延出方向に所定の伸縮性を有する構成とされる。これにより、人間の顎領域を基点として延出する延出領域の伸縮性によって、当該延出方向について人間の顔のリフトアップ効果を得ることができる。

[0007] 本発明にかかる更なる形態のフェイスシートでは、当該フェイスシートを人間の顔に貼付した場合に、一对の延出領域は、各延出領域が当該人間の顎領域と頬領域との間に配置されることで略V字状に形成される構成であるのが好ましい。これにより、人間の顎領域を基点として頬領域まで延出する延出領域の伸縮性によって、当該延出方向について人間の顔の頬領域のリフトアップ効果を得ることができる。

[0008] 本発明にかかる更なる形態のフェイスシートは、当該フェイスシートを人間の顔に貼付した場合に、基部領域が当該人間の顎領域に被着され、一对の延出領域がそれぞれ当該人間の頬領域に被着され、この被着状態で各延出領域は、基部領域を基点として当該人間の頬領域へと引っ張られることで概ね等しい引張力を受けるとともに、当該引張力に基づく収縮によって当該人間の頬領域のリフトアップを行うのが好ましい。これにより、所望のリフトアップ効果を得ることができる。

[0009] 本発明にかかる更なる形態のフェイスシートでは、一对の延出領域についての所定角度が、即ち一对の延出領域が基部領域を挟んで互いになす角度が概ね $30^{\circ} \sim 60^{\circ}$ となるように構成されているのが好ましい。これにより、所望のリフトアップ効果を得るのに好適な、一对の延出領域間の角度の設定を行うことができる。

[0010] 本発明にかかる更なる形態のフェイスシートでは、一对の延出領域はそれぞれ、当該延出領域の延出方向に1[N]の応力が作用した場合に延出方向

に応力作用前のおよそ20 [%] 伸長する構成であるのが好ましい。これにより、所望のリフトアップ効果を得るのに好適な、各延出領域のその延出方向についての伸長性の設定を行うことができる。

[0011] 本発明にかかる更なる形態のフェイスシートでは、一对の延出領域はそれぞれ、当該延出領域の延出方向と交差する交差方向に所定の伸縮性を有する構成であるのが好ましい。これにより、各延出領域の延出方向と交差する交差方向の伸縮性によって、当該交差方向について人間の顔のリフトアップ効果を得ることができる。

[0012] 本発明にかかる更なる形態のフェイスシートでは、一对の延出領域はそれぞれ、当該延出領域の延出方向と交差する交差方向に1 [N] の応力が作用した場合にその交差方向に応力作用前のおよそ20 [%] 伸長する構成であるのが好ましい。これにより、所望のリフトアップ効果を得るのに好適な、各延出領域のその延出方向と交差する方向についての伸長性の設定を行うことができる。

[0013] 本発明にかかる更なる形態のフェイスシートでは、基部領域は、当該フェイスシートを人間の顔に貼付した場合に、当該人間の下顎突部を被覆する凹状に形成され、これにより各延出領域は、基部領域が当該人間の下顎突部によって支持された状態で当該人間の頬領域へと延出するよう構成されているのが好ましい。これにより、各延出領域の一端部が人間の下顎突部に固定されるため、当該延出領域によるリフトアップ効果がより確実なものとなる。

[0014] 本発明にかかる更なる形態のフェイスシートでは、一对の延出領域はそれぞれ、当該延出領域の延出方向への引っ張り操作を手動で行うための第1のつまみ部を備える構成であるのが好ましい。これにより、各延出領域をその延出方向へ引っ張る操作を、第1のつまみ部を用いて容易に行うことが可能となる。

[0015] 本発明にかかる更なる形態のフェイスシートでは、一对の延出領域はそれぞれ、当該延出領域の延出方向と交差する方向への引っ張り操作を手動で行うための第2のつまみ部を備える構成であるのが好ましい。これにより、各

延出領域をその延出方向と交差する方向へ引っ張る操作を、第２のつまみ部を用いて容易に行うことが可能となる。

[0016] 本発明にかかる更なる形態のフェイスシートは、基部領域に一对の延出領域を互いに接合する接合線を備え、この接合線は、一对の延出領域を互いに折り重ねる動作を手動で行う際の折り重ね線として構成されるのが好ましい。これにより、一对の延出領域のための接合線を折り重ね動作の際に用いることができるため合理的である。

[0017] 本発明にかかる更なる形態のフェイスシートは、人間の顔に直に接触する内側不織布シートと、フェイスシート外表面を構成する外側不織布シートを含む少なくとも２層構造の不織布シートとして構成され、内側不織布シートは、親水処理が施された親水性繊維からなり、外側不織布シートは、捲縮処理が施された捲縮性繊維からなるのが好ましい。これにより、内側不織布シートを、化粧水、美容液等の液体の保水機能及び排出機能を有する不織布シートとして利用し、外側不織布シートを、伸縮性を付与するための不織布シートとして利用することができる。

発明の効果

[0018] 以上のように、本発明によれば、保水性を有する不織布を含み、人間の顔に貼付可能なフェイスシートにおいて、当該人間の顔のリフトアップ効果を高めることが可能となった。

図面の簡単な説明

[0019] [図1]本発明にかかる第１の実施形態のフェイスシート１０を人間の顔に貼付された状態にて示す正面図である。

[図2]図１中のフェイスシート１０の成形前の状態を示す平面図である。

[図3]図１中のフェイスシート１０の折り畳み状態を示す平面図である。

[図4]図３中のフェイスシート１０の断面構造を示す図である。

[図5]本発明にかかる第２の実施形態のフェイスシート２０を人間の顔に貼付された状態にて示す正面図である。

[図6]図５中のフェイスシート２０の折り畳み状態を示す平面図である。

[図7]本発明にかかる第3の実施形態のフェイスシート30を人間の顔に貼付された状態にて示す正面図である。

[図8]図7中のフェイスシート30の折り畳み状態を示す平面図である。

[図9]本発明にかかる第4の実施形態のフェイスシート40を人間の顔に貼付された状態にて示す正面図である。

[図10]図9中のフェイスシート40の折り畳み状態を示す平面図である。

発明を実施するための形態

[0020] 以下、本発明にかかる「フェイスシート」の実施形態について、図面を参照しつつ詳細に説明する。ここでいう「フェイスシート」は、人間の顔に貼付可能なシート体として構成される一方、他方では人間の顔を被覆可能な「フェイスマスク」とも称呼される。

[0021] <第1の実施形態>

図1には、第1の実施形態のフェイスシート10が人間の顔に貼付された状態を顔正面から視た様子が示されており、また図2には、図1中のフェイスシート10の成形前の状態が示されている。このフェイスシート10は、図1に示すように一対（2片）のシート構成片11、12が接合線13において接合されることによって成形状態になる。具体的には、図2に示すように略V字状にカットされた平面シート10aをその中央部分の切欠き縁部10b、10cにて重ねて、当該切欠き縁部を融着（「溶着」ともいう）で互いに接合することによって、フェイスシート10が成形される。この場合の融着として、熱によるものや超音波によるものを適宜用いることができる。これにより、フェイスシート10は、一対のシート構成片11、12が人間の顔の表面に倣った立体形状になる。なお、このフェイスシート10が、後述する別実施の形態のフェイスシート20～40の本質的な構造を有している。

[0022] 図1中のフェイスシート10の折り畳み状態が図3に示されている。図3に示すように、フェイスシート10の接合線13は、当該フェイスシートの包装時や使用前等のように、一対のシート構成片11、12を互いに折り重

ねる動作を手動で行う際の折り重ね線として構成される。ここでいう接合線 13 が、本発明における「接合線」に相当する。これにより、一对のシート構成片 11, 12 のための接合線を折り重ね動作の際に用いることができるため合理的である。

[0023] 一对のシート構成片 11, 12 は、これらシート構成片 11, 12 の間の基部領域 15 からそれぞれ突状（長尺状）に延出する延出領域（所定の方向に延在する「延在領域」ともいう）として構成される。基部領域 15 は、フェイスシート 10 の各部位のうち人間の顎領域に貼付可能な領域として構成される。一对のシート構成片 11, 12 はそれぞれ、フェイスシート 10 の各部位のうち人間の顎領域から頬領域にかけて貼付可能となるように構成される。これら一对のシート構成片 11, 12 は、フェイスシート 10 を人間の顔に貼付した状態を顔正面から視た場合に、当該人間の顎領域と頬領域との間に所定のフェイスラインに沿って直線状又は曲線状に延在することで略 V 字状に形成される。具体的には、下顎突部 A とこめかみ領域 B とを結ぶ基準線 L1 に沿って各シート構成片 11, 12 が延在しており、基部領域 15 を挟んで 2 つの基準線 L1, L1 のなす角度 θ は、典型的には $30^\circ \sim 60^\circ$ 、より好ましくは 45° 前後とされる。前記フェイスラインは、下顎突部 A とこめかみ領域 B、及びこれら下顎突部 A とこめかみ領域 B との間の領域を結ぶ側部フェイスラインとして定義され得る。ここでいう角度 θ が、本発明における「所定角度」に相当する。これにより、所望のリフトアップ効果を得るのに好適な、一对のシート構成片 11, 12 間の角度の設定を行うことができる。

[0024] また、シート構成片 11, 12 は、少なくともその延在方向、即ち基準線 L1 に沿った方向に関して所定の伸縮性を有する。これにより、人間の顎領域を基点として延出する一对のシート構成片 11, 12 の伸縮性によって、当該延出方向について人間の顔の、特に頬領域のリフトアップ効果（リフトアップ応力）が生じる。このシート構成片 11, 12 はそれぞれ、その延出方向（基準線 L1 に沿った方向）に 1 [N] の応力が作用した場合に、当該

延出方向に応力作用前のおよそ20 [%] 伸長する伸長性を有するのが好ましい。これにより、所望のリフトアップ効果を得るのに好適な、各シート構成片11, 12のその延出方向についての伸長性の設定を行うことができる。一方で、このシート構成片11, 12はそれぞれ、前記応力が解除された場合には、その延出方向（基準線L1に沿った方向）について応力解除前の70～80 [%] の寸法となるように収縮する収縮性（「回復性」ともいう）を有するのが好ましい。

[0025] 基部領域15は、一方のシート構成片11の内面と他方のシート構成片12の内面とで囲まれる領域のうち接合線13の近傍領域に、当該フェイスシートが図1に示すように立体形状となった場合に、凹状に形成される凹部14を備えている。即ち、基部領域15は、下顎突部Aを被覆する凹状に形成されている。この凹部14は、シート貼付時に人間の下顎突部Aを被覆するように嵌め込まれることによって当該下顎突部Aに対してフェイスシート10を固定する機能、即ち位置決め機能を果たす。これにより、各シート構成片は、基部領域15が下顎突部Aによって支持された状態で当該人間の頬領域へと延出する。従って、各シート構成片11, 12の一端部が人間の下顎突部Aに固定されるため、当該シート構成片によるリフトアップ効果がより確実なものとなる。なお、この凹部14に代えて或いは加えて、フェイスシート10に人間の下顎突部Aに係合可能な開口部（穴）を設けることもできる。

[0026] 一方のシート構成片11のうち基部領域15から離間する先端側には、つまみ部11aが設けられており、このつまみ部11aは、当該シート構成片11の延出方向への引っ張り操作を手動で行うための操作部として構成される。同様に、他方のシート構成片12のうち基部領域15から離間する先端側には、つまみ部12aが設けられており、このつまみ部12aは、当該シート構成片12の延出方向への引っ張り操作を手動で行うための操作部として構成される。即ち、これらつまみ部11a, 12aはいずれも、使用者が手指でつまんで引っ張ることがきるような大きさを有している。ここでいう

つまみ部 11a, 12a が、本発明における「第 1 のつまみ部」に相当する。これにより、各シート構成片をその延出方向へ引っ張る操作を、つまみ部 11a, 12a のつまみ部を用いて容易に行うことが可能となる。

[0027] なお、本明細書中でいう「顎領域」として典型的には、人間の下顎突部（下顎つまみ部）やその周辺部分が挙げられる。また、「頬領域」として典型的には、人間の下顎突部とこめかみ領域とを結ぶ線上に存在する部分が挙げられる。本実施の形態の一对のシート構成片 11, 12 が、本発明における「一对の延出領域」を構成しており、また本実施の形態の基部領域 15 が、本発明における「基部領域」を構成している。

[0028] 上記構成のフェイスシート 10 は、シート状の不織布によって構成される。この不織布については、図 3 中の折り畳み状態のフェイスシート 10 の D-D 線についての断面構造を示す図 4 が参照される。図 4 に示すように、フェイスシート 10 のシート構成片 11, 12 はいずれも、内側不織布シート 110 及び外側不織布シート 120 からなる 2 層構造の不織布シートとして構成される。内側不織布シート 110 は、シート貼付時に人間の顔（肌面）に直に接触する不織布シートとして構成され、シート内面を形成する。外側不織布シート 120 は、シート貼付時にシート外面を形成する不織布シートとして構成される。

[0029] 内側不織布シート 110 は、典型的にはレーヨン、コットン等、親水処理が施された親水性繊維を主体として構成される。この内側不織布シート 110 は、化粧水、美容液等の液体をシート内に保持する保水機能と、一旦保持した液体をシート外へと徐々に排出する排出機能を有する。これにより、フェイスシート 10 の貼付前に予め内側不織布シート 110 に保持された液体を、フェイスシート 10 の貼付後に内側不織布シート 110 から排出して肌へと浸透させることができる。この内側不織布シート 110 は、本来、親水性を有する繊維自体を用いて構成されてもよいし、或いは疎水性の繊維に親水性処理が施された繊維を用いて構成されてもよい。また、この内側不織布シート 110 は、人間の顔に直に接触するところ、肌触りの良い素材で構成

されるのが好ましい。ここでいう内側不織布シート１１０は、フェイスシート１０の一部を構成する不織布であり、本発明における「保水性を有する不織布」及び「内側不織布シート」に相当する。

[0030] 一方で、外側不織布シート１２０は、捲縮処理が施された捲縮性繊維を主体として構成される。捲縮性繊維は伸縮性を有するため、フェイスシート１０の貼付時に外側不織布シート１２０の伸縮性を利用することによって、人間の顔の所望のリフトアップ効果を得ることができる。このリフトアップ効果の詳細については後述する。この外側不織布シート１２０は、疎水性の捲縮性繊維を用いて構成されてもよいし、或いは疎水性の捲縮性繊維に親水性処理が施された繊維を用いて構成されてもよい。ここでいう外側不織布シート１２０が本発明における「外側不織布シート」に相当する。

[0031] なお、フェイスシート１０を内側不織布シート１１０及び外側不織布シート１２０からなる２層構造とする構成に代えて、各不織布シートの前述の機能を兼ね備える１層構造（単一の不織布シート）を用いることもできる。また、必要に応じて、内側不織布シート１１０と外側不織布シート１２０との間に１又は複数の別の不織布シートを介在させてもよい。

[0032] 上記構成のフェイスシート１０を人間の顔に貼付する場合の作用効果を、図１を参照しつつ説明する。

[0033] 図１によれば、フェイスシート１０の使用時には、まず基部領域１５の凹部１４が下顎突部Ａに嵌め込まれて、当該下顎突部Ａに対してフェイスシート１０が位置決めされる。その後、基部領域１５を基点として、一对のシート構成片１１，１２がそれぞれ使用者の手指によって頬領域の方向へと引っ張られる。このとき、一对のシート構成片１１，１２は、概ね等しい引張力を受けるとともに、当該引張力に基づく収縮によって頬領域のリフトアップ、即ちたるみの引き上げを行う。即ち、基部領域１５が当該人間の顎領域に被着され、一对のシート構成片１１，１２がそれぞれ当該人間の頬領域に被着され、この被着状態で各シート構成片は、基部領域１５を基点として当該人間の頬領域へと引っ張られることで概ね等しい引張力を受けるとともに、

当該引張力に基づく収縮によって当該人間の頬領域のリフトアップを行う。この引っ張り操作は、使用者がつまみ部 11a, 12a を手指でつまんで行われるのが好ましい。これにより、使用者は、つまみ部 11a, 12a を手指でつまんだ状態で一定方向に引き上げる簡単な操作のみによって、フェイスシート 10 の理想的なリフトアップ形状を達成することができる。かくして、人間の顔のうち特に頬領域について所望のリフトアップ効果が得られる。更に、このリフトアップ形状が維持された状態で、化粧水、美容液等の液体が肌へと浸透することによって、当該液体による美容効果との相乗効果を得ることができる。

[0034] <第 2 の実施形態>

第 2 実施の形態のフェイスマスク 20 は、上記フェイスマスク 10 の変形例とされる。ここで図 5 には、第 2 の実施形態のフェイスシート 20 が人間の顔に貼付された状態を顔正面から視た様子が示されており、また図 6 には、図 5 中のフェイスシート 20 の折り畳み状態が示されている。

[0035] フェイスシート 20 は、図 5 及び図 6 に示すように、一对のシート構成片 21, 22 が第 1 の実施形態と同様の接合線 13 において接合されることによって成形状態になる。このフェイスシート 20 のシート構成片 21, 22 はいずれも、前述の内側不織布シート 110 及び外側不織布シート 120 からなる 2 層構造の不織布シートとして構成される。シート構成片 21, 22 は、少なくともその延在方向、即ち基準線 L1 に沿った方向に関して伸縮性を有する。このシート構成片 21, 22 はそれぞれ、第 1 実施の形態のシート構成片 11, 12 について前述の「伸長性」及び「収縮性」を有するのが好ましい。また、一对のシート構成片 21, 22 は、第 1 の実施形態のつまみ部 11a, 12a と同様のつまみ部 21a, 22a を備えている。ここでいうつまみ部 21a, 22a が、本発明における「第 1 のつまみ部」に相当する。

[0036] 更に、このフェイスシート 20 では、各シート構成片 21, 22 は、その延出方向と交差する方向に関して、即ち基準線 L1 と交差し且つ下顎角領域

C（えら張り部）を通る基準線L 2に沿った方向に関して所定の伸縮性を有する。これにより、各シート構成片2 1, 2 2の延出方向と交差する交差方向の伸縮性によって、当該交差方向について人間の顔の、特に頬領域のリフトアップ効果（リフトアップ応力）が生じる。このシート構成片2 1, 2 2はそれぞれ、基準線L 2に沿った方向に1 [N]の応力が作用した場合に当該方向に応力作用前のおよそ20 [%]伸長する伸長性を有するのが好ましい。これにより、所望のリフトアップ効果を得るのに好適な、各シート構成片2 1, 2 2のその延出方向と交差する方向についての伸長性の設定を行うことができる。一方で、このシート構成片2 1, 2 2はそれぞれ、前記応力が解除された場合には、基準線L 2に沿った方向について応力解除前の70 ~ 80 [%]の寸法となるように収縮する収縮性を有するのが好ましい。

[0037] また、一对のシート構成片2 1, 2 2は、下顎角領域Cに対応する領域に、つまみ部2 1 a, 2 2 aとは別のつまみ部2 1 b, 2 2 bを備えている。つまみ部2 1 b, 2 2 bは、各シート構成片2 1, 2 2の下顎角領域Cの方向への引っ張り操作を手動で行うための操作部として構成される。即ち、これらつまみ部2 1 b, 2 2 bはいずれも、使用者が手指でつまんで引っ張ることができるような大きさを有している。ここでいうつまみ部2 1 b, 2 2 bが、本発明における「第2のつまみ部」に相当する。これにより、各シート構成片をその延出方向と交差する方向へ引っ張る操作を、つまみ部2 1 b, 2 2 bを用いて容易に行うことが可能となる。

[0038] <第3の実施形態>

第3実施の形態のフェイスマスク30は、上記フェイスマスク20の変形例とされ、特にフェイスマスク20よりも貼付領域を大幅に増やした実施例とされる。ここで、図7には、第3の実施形態のフェイスシート30が人間の顔に貼付された状態を顔正面から見た様子が示されており、また図8には、図7中のフェイスシート30の折り畳み状態が示されている。

[0039] フェイスシート30は、図7及び図8に示すように、一对のシート構成片3 1, 3 2が接合線3 3において接合されることによって成形状態になる。

各シート構成片 3 1, 3 2 は、第 2 実施の形態の各シート構成片 2 1, 2 2 をベースとして、更に人間の顔面のうち目の直下の領域まで貼付領域を拡張させたシート体として構成されている。接合線 3 3 は、当該フェイスシートの包装時や使用前等のように、一对のシート構成片 3 1, 3 2 を互いに折り重ねる動作を手動で行う際の折り重ね線として構成される。ここでいう接合線 3 3 が、本発明における「接合線」に相当する。

[0040] このフェイスシート 3 0 のシート構成片 3 1, 3 2 はいずれも、前述の内側不織布シート 1 1 0 及び外側不織布シート 1 2 0 からなる 2 層構造の不織布シートとして構成される。シート構成片 3 1, 3 2 は、下顎突部 A とこめかみ領域 B とを結ぶ基準線 L 1 に沿った方向に関して伸縮性を有する。このシート構成片 3 1, 3 2 はそれぞれ、基準線 L 1 に沿った方向に 1 [N] の応力が作用した場合に当該方向に応力作用前のおよそ 2 0 [%] 伸長する伸長性を有するのが好ましい。一方で、このシート構成片 3 1, 3 2 はそれぞれ、前記応力が解除された場合には、基準線 L 1 に沿った方向について応力解除前の 7 0 ~ 8 0 [%] の寸法となるように収縮する収縮性を有するのが好ましい。また、一对のシート構成片 3 1, 3 2 は、第 2 の実施形態のつまみ部 2 1 a, 2 2 a と同様のつまみ部 3 1 a, 3 2 a を備えている。ここでいうつまみ部 3 1 a, 3 2 a が、本発明における「第 1 のつまみ部」に相当する。

[0041] 更に、このフェイスシート 3 0 では、各シート構成片 3 1, 3 2 は、基準線 L 1 と交差し且つ下顎角領域 C (えら張り部) を通る基準線 L 2 に沿った方向に関して伸縮性を有する。このシート構成片 3 1, 3 2 はそれぞれ、基準線 L 2 に沿った方向に 1 [N] の応力が作用した場合に当該方向に応力作用前のおよそ 2 0 [%] 伸長する伸長性を有するのが好ましい。一方で、このシート構成片 3 1, 3 2 はそれぞれ、前記応力が解除された場合には、基準線 L 2 に沿った方向について応力解除前の 7 0 ~ 8 0 [%] の寸法となるように収縮する収縮性を有するのが好ましい。また、一对のシート構成片 3 1, 3 2 は、下顎角領域 C に対応する領域に、第 2 の実施形態のつまみ部 2

1 b, 2 2 bと同様のつまみ部3 1 b, 3 2 bを備えている。ここでいうつまみ部3 1 b, 3 2 bが、本発明における「第2のつまみ部」に相当する。

[0042] 更に、このフェイスシート3 0では、一对のシート構成片3 1, 3 2はそれぞれ、相対的に伸縮性の低い低伸縮領域を有する。具体的には、各シート構成片は、人間の顎領域と頬領域との間に延在する基準線L 1上の部位（高伸縮領域3 4）よりも伸縮性が低い部位としての低伸縮領域3 5及び3 6を有する。即ち、これら低伸縮領域3 5及び3 6は、その伸長の度合が高伸縮領域3 4の伸張の度合よりも小さく、且つその収縮の度合が高伸縮領域3 4の収縮の度合よりも小さくなるように構成されるのが好ましい。これら低伸縮領域3 5及び3 6は、典型的には、人間の顔にフェイスシートを貼付した場合に、顔面の所定部位との密着性が維持されるように当該所定部位に余分な応力を付与しない程度の伸縮性を有することが好ましい。

[0043] 本実施の形態では、低伸縮領域3 5, 3 5はいずれも、人間の目元領域に貼付される貼付領域として構成され、また低伸縮領域3 6, 3 6はいずれも、人間の顎角領域Cとこめかみ領域Bとの間の領域に貼付される貼付領域として構成される。目元領域等には余分な応力が作用しないことが好ましいため、当該添付領域は前述のリフトアップ効果を優先させたい部位ではなく、むしろ顔面との密着効果を優先させるべく伸縮性を抑えた部位であることを要する。従って、高伸縮領域3 4は、前述のリフトアップ形状に関与するように基準線L 1上に配置されるのに対し、これら低伸縮領域3 5及び3 6はいずれも、当該リフトアップ形状に関与しない基準線L 1から外れた部位として構成される。これにより、人間の顔の各部位のうちリフトアップ効果を優先させたい部位に対しては高伸縮領域3 4を割り当てる一方で、顔との密着効果を優先させたい部位に対しては低伸縮領域3 5及び3 6を割り当てることができ、フェイスシート3 0全体の伸縮性を所望の形態にコントロールすることが可能となる。これにより、人間の顔の各部位に適応したフェイスシートを実現できる。

[0044] 上記低伸縮領域3 5及び3 6はいずれも、当該領域の所定方向に1 [N]

の応力が作用した場合に前記所定方向に応力作用前のおよそ１～５ [%] 伸長する低伸長性を有するのが好ましい。これにより、所望の密着効果を得るのに好適な、低伸縮領域３５及び３６の伸長性の設定を行うことができる。ここで、低伸縮領域３５及び３６はいずれも、シート構成片を構成する不織布の表面に複数の凹凸を加熱型付けすることによって、即ち熱エンボス加工によって当該不織布の伸縮性を低下させたエンボス領域として構成されるのが好ましい。例えば、エンボスピッチが１２．５ [mm] の場合に応力作用前のおよそ５ [%] 伸長し、エンボスピッチが７ [mm] の場合に応力作用前のおよそ１ [%] 伸長することが測定された。これにより、不織布に熱エンボス加工を施すことによって低伸縮領域３５及び３６を簡単に形成することが可能となる。

[0045] <第４の実施形態>

第４実施の形態のフェイスマスク４０は、上記フェイスマスク３０の変形例とされ、特にフェイスマスク３０よりも貼付領域を増やした実施例とされる。ここで、図９には、第４の実施形態のフェイスシート４０が人間の顔に貼付された状態を顔正面から見た様子が示されており、また図１０には、図９中のフェイスシート４０の折り畳み状態が示されている。なお、図９及び図１０において、図７及び図８と同一の構成要素には同一の符号を付しており、当該同一の構成要素についての説明は省略する。また、これら図９及び図１０においては、便宜上、低伸縮領域３５及び３６に相当する領域の図示を省略している。

[0046] フェイスシート４０は、図９及び図１０に示すように、一对のシート構成片４１，４２が第３の実施形態と同様の接合線３３において接合されることによって成形状態になる。各シート構成片４１，４２は、第３実施の形態の各シート構成片３１，３２をベースとして、更に人間の顔面のうち目よりも上方の領域や、下顎の裏の領域にも貼付領域を拡張させたシート体として構成されている。従って、シート構成片４１，４２はそれぞれ、シート構成片３１，３２に更に、目上貼付部４７及び下顎裏側貼付部４８が追加された構

成になっている。目上貼付部４７は、人間の顔の各部位のうち目よりも上方のおでこ等の目上領域に貼付されるように構成される。下顎裏側貼付部４８は、人間の顔の各部位のうち下顎裏側領域に貼付されるように構成される。本構成のフェイスシート４０によれば、保湿等の美容効果を付与したい顔の部位に基づいて貼付領域を増やすことができる。更に、必要に応じて、フェイスシートの一部（例えば、下顎裏側貼付部４８）が人間の首領域（例えば、首前面から首側面にかけての領域）にも貼付されるように構成することができる。

[0047] （他の実施の形態）

なお、本発明は上記の実施の形態のみに限定されるものではなく、種々の応用や変形が考えられる。例えば、上記実施の形態を応用した次の各形態を実施することもできる。

[0048] 上記実施の形態のフェイスシート２０，３０，４０は、基準線Ｌ２に沿った方向については基準線Ｌ１に沿った方向と同様の伸縮性を有する場合について記載したが、本発明では、少なくとも基準線Ｌ１に沿った方向に関して所定の伸縮性を有していれば足りる。

[0049] 本発明では、上記実施の形態のフェイスシート３０，４０の低伸縮領域３５及び３６の少なくとも一方を必要に応じて省略することもできる。

[0050] 上記実施の形態のフェイスシート１０～４０はいずれも一对（２片）のシート構成片を熱や超音波による融着で接合することで成形される場合について記載したが、本発明では、シート構成片の数は１又は３以上であってもよく、また融着以外に接着剤による接合方法を用いることもできる。

[0051] また、上記実施の形態のフェイスシート１０～４０では、シート構成片同士の接合部分に形成される凹部１４を利用して、下顎突部Ａに対して当該フェイスシートを固定する構成について記載したが、本発明では、フェイスシートの平面部分を凹状に加工したり、フェイスシートの平面部分に開口部（穴）を形成することによって、凹部１４に相当する部位を設けることもできる。この場合、シート構成片の数が１つの、接合部分のないフェイスシート

とすることができるため、部品点数が少なく済む。

[0052] 上記実施の形態や種々の変更例の記載に基づいた場合、本発明では、以下の各態様を採用することが可能である。

[0053] (態様 1)

保水性を有する不織布を含み、人間の顔に貼付可能なフェイスシートであって、

人間の顎領域に貼付可能な基部領域と、

前記基部領域からそれぞれ突状に延出する一对の延出領域と、

を含み、

前記一对の延出領域は、前記基部領域を挟んで互いに所定角度をなして延出するとともに、当該延出方向に所定の伸縮性を有することを特徴とするフェイスシート。

[0054] (態様 2)

態様 1 に記載のフェイスシートであって、

当該フェイスシートを人間の顔に貼付した場合に、前記一对の延出領域は、各延出領域が当該人間の顎領域と頬領域との間に配置されることで略 V 字状に形成されることを特徴とするフェイスシート。

[0055] (態様 3)

態様 1 又は 2 に記載のフェイスシートであって、

当該フェイスシートを人間の顔に貼付した場合に、前記基部領域が当該人間の顎領域に被着され、前記一对の延出領域がそれぞれ当該人間の頬領域に被着され、この被着状態で各延出領域は、前記基部領域を基点として当該人間の頬領域へと引っ張られることで概ね等しい引張力を受けるとともに、当該引張力に基づく収縮によって当該人間の頬領域のリフトアップを行うことを特徴とするフェイスシート。

[0056] (態様 4)

態様 1 から 3 のうちのいずれかに記載のフェイスシートであって、

前記一对の延出領域についての前記所定角度が概ね 30° ～ 60° となる

ように構成されていることを特徴とするフェイスシート。

[0057] (態様 5)

態様 1 から 4 のうちのいずれかに記載のフェイスシートであって、
前記一对の延出領域はそれぞれ、当該延出領域の延出方向に 1 [N] の応力が作用した場合に前記延出方向に応力作用前のおよそ 20 [%] 伸長することを特徴とするフェイスシート。

[0058] (態様 6)

態様 1 から 5 のうちのいずれかに記載のフェイスシートであって、
前記一对の延出領域はそれぞれ、当該延出領域の延出方向と交差する交差方向に所定の伸縮性を有することを特徴とするフェイスシート。

[0059] (態様 7)

態様 6 に記載のフェイスシートであって、
前記一对の延出領域はそれぞれ、当該延出領域の延出方向と交差する交差方向に 1 [N] の応力が作用した場合に前記交差方向に応力作用前のおよそ 20 [%] 伸長することを特徴とするフェイスシート。

[0060] (態様 8)

態様 1 から 7 のうちのいずれかに記載のフェイスシートであって、
前記基部領域は、当該フェイスシートを人間の顔に貼付した場合に、当該人間の顎突部を被覆する凹状に形成され、これにより各延出領域は、前記基部領域が当該人間の顎突部によって支持された状態で当該人間の頬領域へと延出することを特徴とするフェイスシート。

[0061] (態様 9)

態様 1 から 8 のうちのいずれかに記載のフェイスシートであって、
前記一对の延出領域はそれぞれ、当該延出領域の延出方向への引っ張り操作を手動で行うための第 1 のつまみ部を備えることを特徴とするフェイスシート。

[0062] (態様 10)

態様 9 に記載のフェイスシートであって、

前記一对の延出領域はそれぞれ、当該延出領域の延出方向と交差する方向への引っ張り操作を手動で行うための第2のつまみ部を備えることを特徴とするフェイスシート。

[0063] (態様11)

態様1から10のうちのいずれかに記載のフェイスシートであって、
前記基部領域に前記一对の延出領域を互いに接合する接合線を備え、前記接合線は、前記一对の延出領域を互いに折り重ねる動作を手動で行う際の折り重ね線として構成されることを特徴とするフェイスシート。

[0064] (態様12)

態様1から11のうちのいずれかに記載のフェイスシートであって、
当該フェイスシートは、人間の顔に直に接触する内側不織布シートと、フェイスシート外表面を構成する外側不織布シートを含む少なくとも2層構造の不織布シートとして構成され、
前記内側不織布シートは、親水処理が施された親水性繊維からなり、前記外側不織布シートは、捲縮処理が施された捲縮性繊維からなることを特徴とするフェイスシート。

[0065] (態様13)

態様1から12のうちのいずれかに記載のフェイスシートであって、
人間の顎領域を基点として延出する前記一对の延出領域の前記延出方向の伸縮性によって、当該延出方向について人間の頬領域のリフトアップ応力が生じることを特徴とするフェイスシート。

[0066] (態様14)

態様1から13のうちのいずれかに記載のフェイスシートであって、
前記一对の延出領域はそれぞれ、人間の顎突部とこめかみ領域とを結ぶ基準線に沿って延在することを特徴とするフェイスシート。

[0067] (態様15)

態様1から14のうちのいずれかに記載のフェイスシートであって、
前記一对の延出領域はそれぞれ、当該延出領域の延出方向に1[N]の応

力が作用した場合に前記延出方向に応力作用前のおよそ20 [%] 伸長する一方、前記応力が解除された場合には、前記延出方向について応力解除前の70～80 [%] の寸法となるように収縮することを特徴とするフェイスシート。

[0068] (態様16)

態様1から15のうちのいずれかに記載のフェイスシートであって、
前記一对の延出領域はそれぞれ、当該延出領域の延出方向と交差する交差方向に所定の伸縮性を有し、その伸縮性によって当該交差方向について人間の頬領域のリフトアップ応力が生じることを特徴とするフェイスシート。

[0069] (態様17)

態様16に記載のフェイスシートであって、
前記一对の延出領域はそれぞれ、前記交差方向に1 [N] の応力が作用した場合に前記交差方向に応力作用前のおよそ20 [%] 伸長する一方、前記応力が解除された場合には、前記交差方向について応力解除前の70～80 [%] の寸法となるように収縮することを特徴とするフェイスシート。

[0070] (態様18)

態様16又は17に記載のフェイスシートであって、
前記交差方向は、人間の顎突部とこめかみ領域とを結ぶ基準線と交差し、且つ下顎角領域を通る基準線に沿った方向として規定されることを特徴とするフェイスシート。

[0071] (態様19)

態様1から18のうちのいずれかに記載のフェイスシートであって、
略V字状にカットされた平面シートをその中央部分の切欠き縁部にて重ねて、当該切欠き縁部を融着で互いに接合することによって、前記一对の延出領域が人間の顔の表面に倣った立体形状となるように構成されていることを特徴とするフェイスシート。

[0072] 上記実施の形態や種々の変更例の記載に基づいた場合、本発明では、以下の各アスペクトを採用することが可能である。

[0073] (アスペクト 1)

保水性を有する不織布を含み、人間の顔に貼付可能なフェイスシートであって、

人間の顎領域に貼付可能な基部領域と、

前記基部領域からそれぞれ突状に延出する一対の延出領域と、
を含み、

前記一対の延出領域は、前記基部領域を挟んで互いに所定角度をなして延出するとともに、当該延出方向に所定の伸縮性を有することを特徴とするフェイスシート。

[0074] (アスペクト 2)

アスペクト 1 に記載のフェイスシートであって、

当該フェイスシートを人間の顔に貼付した場合に、前記一対の延出領域は、各延出領域が当該人間の顎領域と頬領域との間に配置されることで略 V 字状に形成されることを特徴とするフェイスシート。

[0075] (アスペクト 3)

アスペクト 1 に記載のフェイスシートであって、

当該フェイスシートを人間の顔に貼付した場合に、前記基部領域が当該人間の顎領域に被着され、前記一対の延出領域がそれぞれ当該人間の頬領域に被着され、この被着状態で各延出領域は、前記基部領域を基点として当該人間の頬領域へと引っ張られることで概ね等しい引張力を受けるとともに、当該引張力に基づく収縮によって当該人間の頬領域のリフトアップを行うことを特徴とするフェイスシート。

[0076] (アスペクト 4)

アスペクト 1 に記載のフェイスシートであって、

前記一対の延出領域についての前記所定角度が概ね $30^{\circ} \sim 60^{\circ}$ となることを特徴とするフェイスシート。

[0077] (アスペクト 5)

アスペクト 1 に記載のフェイスシートであって、

前記基部領域に前記一对の延出領域を互いに接合する接合線を備え、前記接合線は、前記一对の延出領域を互いに折り重ねる動作を手動で行う際の折り重ね線として構成されることを特徴とするフェイスシート。

[0078] (アスペクト6)

アスペクト1に記載のフェイスシートであって、

略V字状にカットされた平面シートをその中央部分の切欠き縁部にて重ねて、当該切欠き縁部を融着で互いに接合することによって、前記一对の延出領域が人間の顔の表面に倣った立体形状となるように構成されていることを特徴とするフェイスシート。

[0079] (アスペクト7)

保水性を有する不織布を含み、人間の顔に貼付可能なフェイスシートであって、

人間の顔に貼付した状態で、当該人間の顔の突部を被覆する凹状に形成された基部領域と、

前記基部領域から所定のフェイスラインに沿って延出し、当該延出方向に所定の伸縮性を有する延出領域と、

を備えることを特徴とするフェイスシート。

[0080] (アスペクト8)

アスペクト7に記載のフェイスシートであって、

前記基部領域を基点とした前記延出領域の前記延出方向の伸縮性によって、当該延出方向について人間の顔のリフトアップ応力が生じることを特徴とするフェイスシート。

[0081] (アスペクト9)

アスペクト7に記載のフェイスシートであって、

前記フェイスラインは、人間の顎突部とこめかみ領域、及びこれら顎突部とこめかみ領域との間の領域を結ぶ側部フェイスラインとして定義され、

前記延出領域は、前記基部領域から前記側部フェイスラインに沿って延出

することを特徴とするフェイスシート。

[0082] (アスペクト 10)

保水性を有する不織布を含み、人間の顔に貼付可能なフェイスシートであって、

人間の顔に貼付した状態で、所定のフェイスラインに沿って延在し、当該延在方向及びその交差方向のそれぞれに所定の伸縮性を有する延在領域を備えることを特徴とするフェイスシート。

[0083] (アスペクト 11)

アスペクト 10 に記載のフェイスシートであって、

前記フェイスラインは、人間の顎突部とこめかみ領域、及びこれら顎突部とこめかみ領域との間の領域を結ぶ側部フェイスラインとして定義され、

前記延在領域は、前記側部フェイスラインに沿って延在し、前記交差方向は、前記延在方向と交差し、且つ顎角領域を通る基準線に沿った方向として規定されることを特徴とするフェイスシート。

[0084] (アスペクト 12)

アスペクト 10 に記載のフェイスシートであって、

前記延在領域は、前記延在方向に 1 [N] の応力が作用した場合に前記延在方向に応力作用前のおよそ 20 [%] 伸長する一方、前記応力が解除された場合には、前記延在方向について応力解除前の 70～80 [%] の寸法となるように収縮することを特徴とするフェイスシート。

[0085] (アスペクト 13)

アスペクト 10 に記載のフェイスシートであって、

前記延在領域は、前記交差方向に 1 [N] の応力が作用した場合に前記交差方向に応力作用前のおよそ 20 [%] 伸長する一方、前記応力が解除された場合には、前記交差方向について応力解除前の 70～80 [%] の寸法となるように収縮することを特徴とするフェイスシート。

[0086] (アスペクト 14)

保水性を有する不織布を含み、人間の顔に貼付可能なフェイスシートであって、

人間の顔に貼付した状態で、所定のフェイスラインに沿って延在し、当該延在方向及びその交差方向のそれぞれに所定の伸縮性を有する延在領域と、

前記延在領域の前記延在方向への引っ張り操作を手動で行うための第1のつまみ部と、

前記延在領域の前記交差方向への引っ張り操作を手動で行うための第2のつまみ部と、

を備えることを特徴とするフェイスシート。

[0087] (アスペクト15)

アスペクト14に記載のフェイスシートであって、

前記延在領域は、前記第1のつまみ部の引っ張り操作によって前記延在方向に1[N]の応力が作用した場合に、前記延在方向に応力作用前のおよそ20[%]伸長することを特徴とするフェイスシート。

[0088] (アスペクト16)

アスペクト14に記載のフェイスシートであって、

前記延在領域は、前記第2のつまみ部の引っ張り操作によって前記交差方向に1[N]の応力が作用した場合に、前記交差方向に応力作用前のおよそ20[%]伸長することを特徴とするフェイスシート。

[0089] (アスペクト17)

保水性を有する不織布を含み、人間の顔に貼付可能なフェイスシートであって、

人間の顔に貼付した状態で、所定のフェイスラインに沿って延在し、当該延在方向に所定の伸縮性を有する延在領域を備え、

当該フェイスシートは、人間の顔に直に接触する内側不織布シートと、フェイスシート外表面を構成する外側不織布シートを含む少なくとも2層構造の不織布シートとして構成されていることを特徴とするフェイスシート。

[0090] (アスペクト18)

アスペクト 17 に記載のフェイスシートであって、

前記内側不織布シートは、親水処理が施された親水性繊維からなり、前記外側不織布シートは、捲縮処理が施された捲縮性繊維からなることを特徴とするフェイスシート。

符号の説明

- [0091] 10 フェイスシート
- 10a 平面シート
- 10b, 10c 切欠き縁部
- 11, 12 シート構成片
- 11a, 12a つまみ部
- 13 接合線
- 14 凹部
- 15 基部領域
- 20 フェイスシート
- 21, 22 シート構成片
- 21a, 22b, 22a, 22b つまみ部
- 30 フェイスシート
- 31, 32 シート構成片
- 31a, 32b, 32a, 32b つまみ部
- 33 接合線
- 34 高伸縮領域
- 35, 36 低伸縮領域
- 40 フェイスシート
- 41, 42 シート構成片
- 47 目上貼付部
- 48 下顎裏側貼付部
- 110 内側不織布シート
- 120 外側不織布シート

- A 下顎突部
- B こめかみ領域
- C 下顎角領域
- L 1, L 2 基準線

請求の範囲

- [請求項1] 保水性を有する不織布を含み、人間の顔に貼付可能なフェイスシートであって、
- 人間の顎領域に貼付可能な基部領域と、
- 前記基部領域からそれぞれ突状に延出する一対の延出領域と、
- を含み、
- 前記一対の延出領域は、前記基部領域を挟んで互いに所定角度をなして延出するとともに、当該延出方向に所定の伸縮性を有することを特徴とするフェイスシート。
- [請求項2] 請求項1に記載のフェイスシートであって、
- 当該フェイスシートを人間の顔に貼付した場合に、前記一対の延出領域は、各延出領域が当該人間の顎領域と頬領域との間に配置されることで略V字状に形成されることを特徴とするフェイスシート。
- [請求項3] 請求項1又は2に記載のフェイスシートであって、
- 当該フェイスシートを人間の顔に貼付した場合に、前記基部領域が当該人間の顎領域に被着され、前記一対の延出領域がそれぞれ当該人間の頬領域に被着され、この被着状態で各延出領域は、前記基部領域を基点として当該人間の頬領域へと引っ張られることで概ね等しい引張力を受けるとともに、当該引張力に基づく収縮によって当該人間の頬領域のリフトアップを行うことを特徴とするフェイスシート。
- [請求項4] 請求項1から3のうちのいずれか一項に記載のフェイスシートであって、
- 前記一対の延出領域についての前記所定角度が概ね 30° ～ 60° となるように構成されていることを特徴とするフェイスシート。
- [請求項5] 請求項1から4のうちのいずれか一項に記載のフェイスシートであって、
- 前記一対の延出領域はそれぞれ、当該延出領域の延出方向に1[N]の応力が作用した場合に前記延出方向に応力作用前のおよそ20[

%] 伸長することを特徴とするフェイスシート。

[請求項6] 請求項 1 から 5 のうちのいずれか一項に記載のフェイスシートであって、

前記一对の延出領域はそれぞれ、当該延出領域の延出方向と交差する交差方向に所定の伸縮性を有する構成であることを特徴とするフェイスシート。

[請求項7] 請求項 6 に記載のフェイスシートであって、

前記一对の延出領域はそれぞれ、当該延出領域の延出方向と交差する交差方向に 1 [N] の応力が作用した場合に前記交差方向に応力作用前のおよそ 20 [%] 伸長することを特徴とするフェイスシート。

[請求項8] 請求項 1 から 7 のうちのいずれか一項に記載のフェイスシートであって、

前記基部領域は、当該フェイスシートを人間の顔に貼付した場合に、当該人間の顎突部を被覆する凹状に形成され、これにより各延出領域は、前記基部領域が当該人間の顎突部によって支持された状態で当該人間の頬領域へと延出することを特徴とするフェイスシート。

[請求項9] 請求項 1 から 8 のうちのいずれか一項に記載のフェイスシートであって、

前記一对の延出領域はそれぞれ、当該延出領域の延出方向への引っ張り操作を手動で行うための第 1 のつまみ部を備える構成であることを特徴とするフェイスシート。

[請求項10] 請求項 9 に記載のフェイスシートであって、

前記一对の延出領域はそれぞれ、当該延出領域の延出方向と交差する方向への引っ張り操作を手動で行うための第 2 のつまみ部を備える構成であることを特徴とするフェイスシート。

[請求項11] 請求項 1 から 10 のうちのいずれか一項に記載のフェイスシートであって、

前記基部領域に前記一对の延出領域を互いに接合する接合線を備え

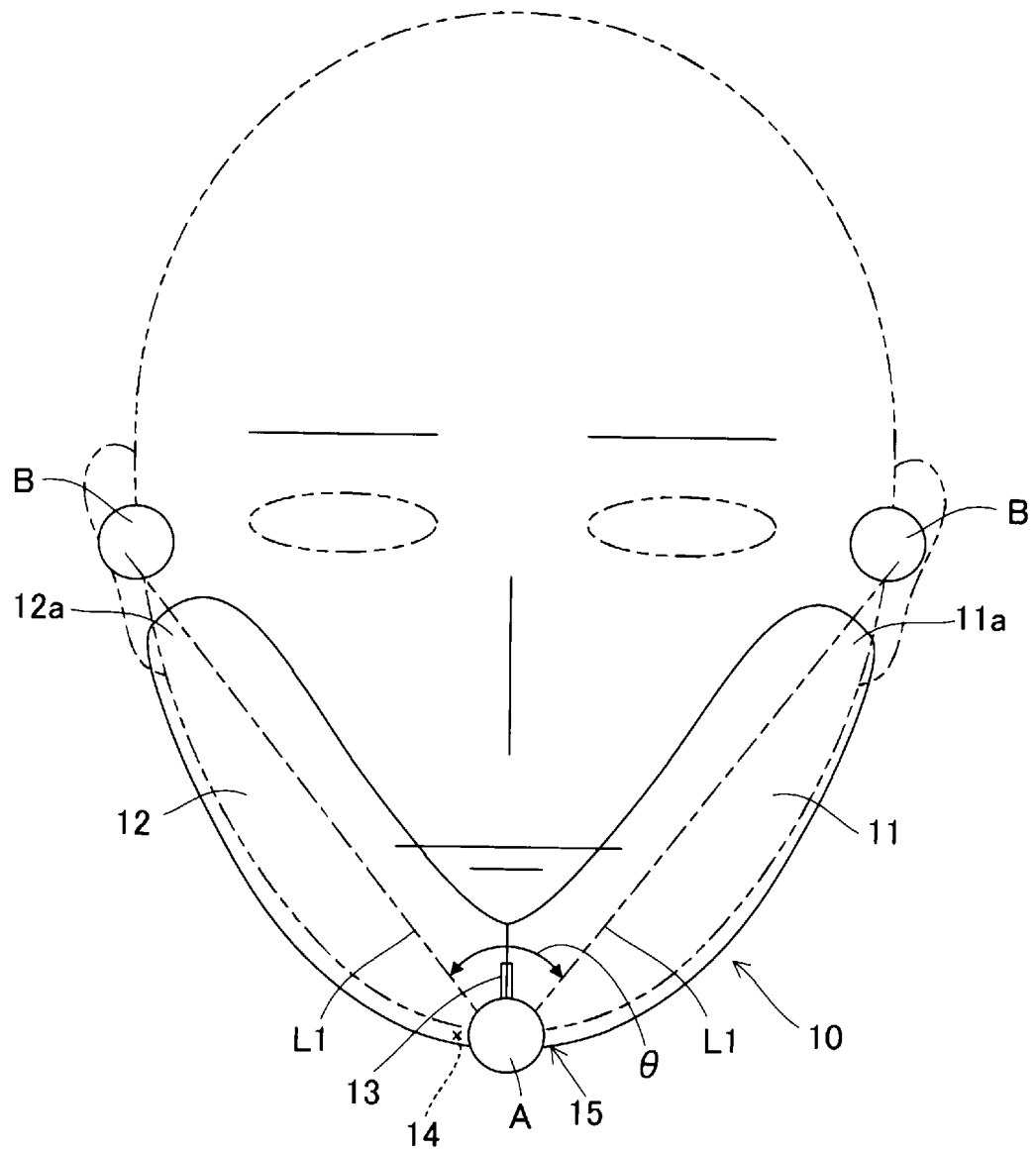
、前記接合線は、前記一对の延出領域を互いに折り重ねる動作を手動で行う際の折り重ね線として構成されることを特徴とするフェイスシート。

[請求項12] 請求項1 から 1 1 のうちのいずれか一項に記載のフェイスシートであって、

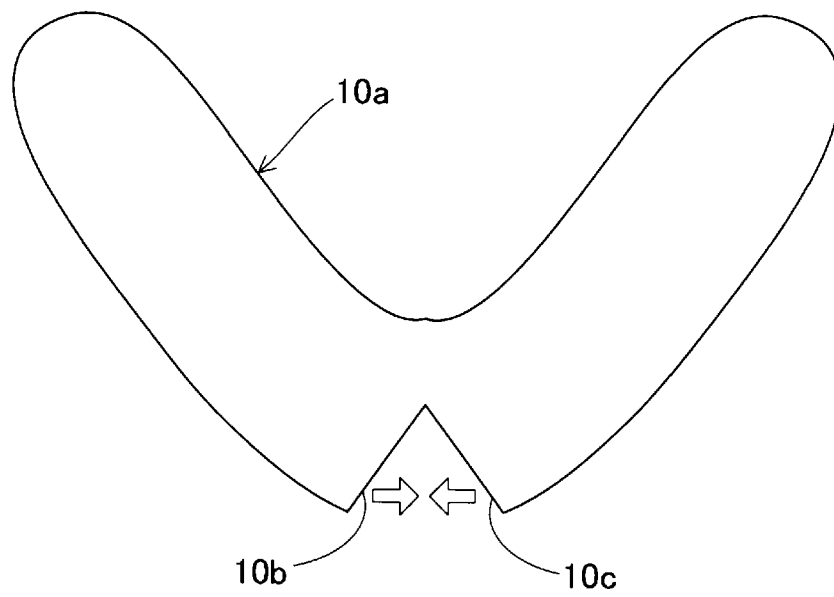
 当該フェイスシートは、人間の顔に直に接触する内側不織布シートと、フェイスシート外表面を構成する外側不織布シートを含む少なくとも2層構造の不織布シートとして構成され、

 前記内側不織布シートは、親水処理が施された親水性繊維からなり、前記外側不織布シートは、捲縮処理が施された捲縮性繊維からなることを特徴とするフェイスシート。

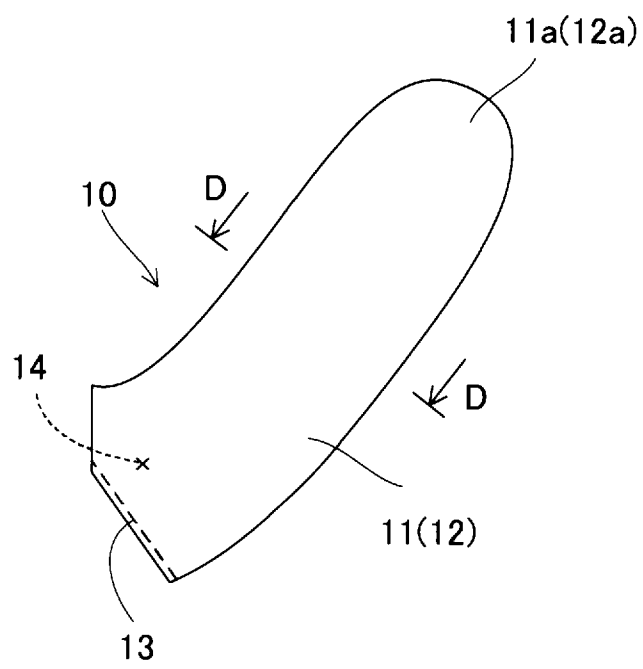
[図1]



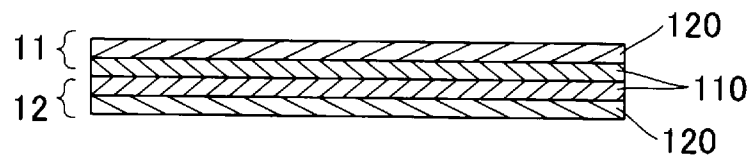
[図2]



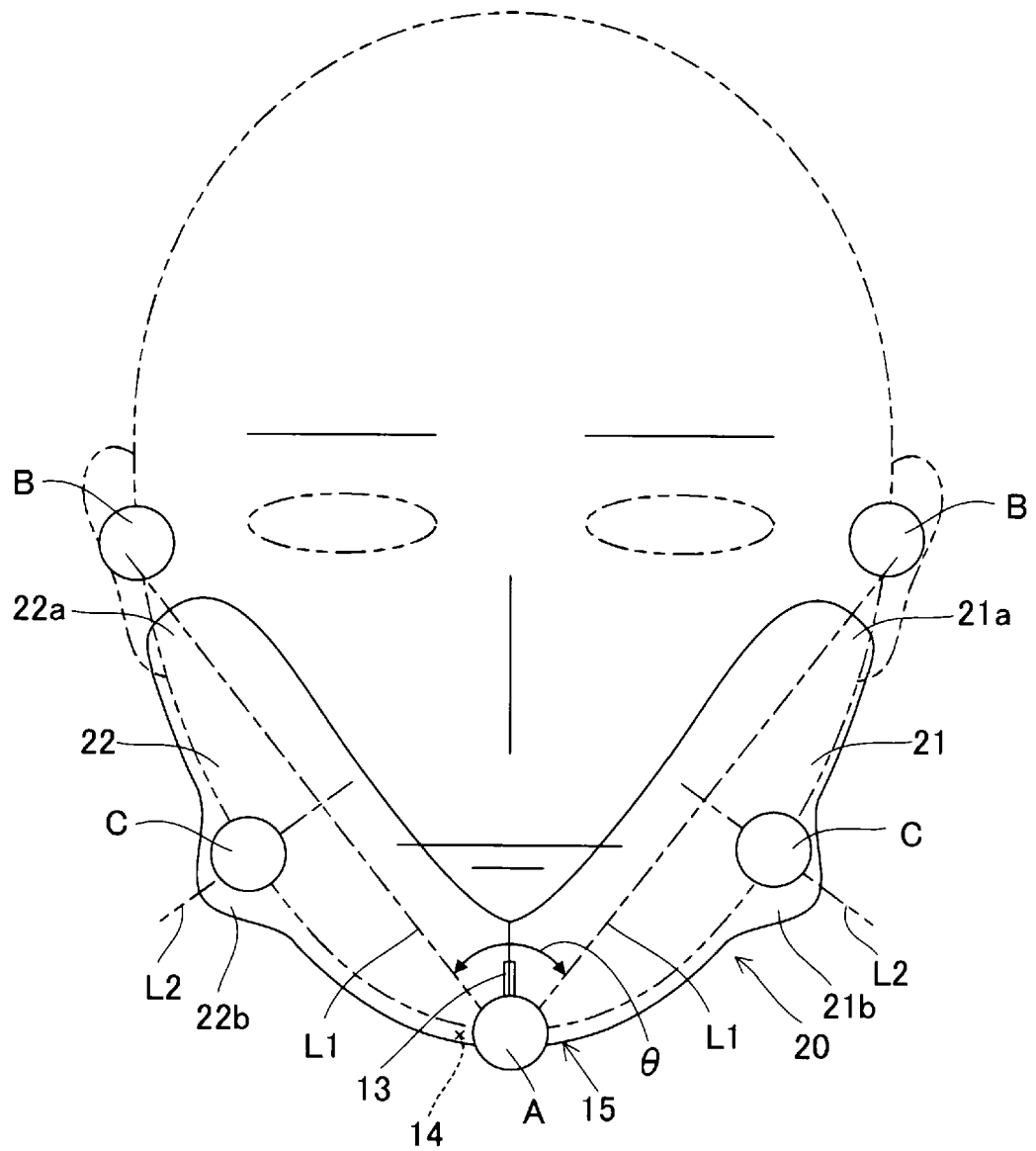
[図3]



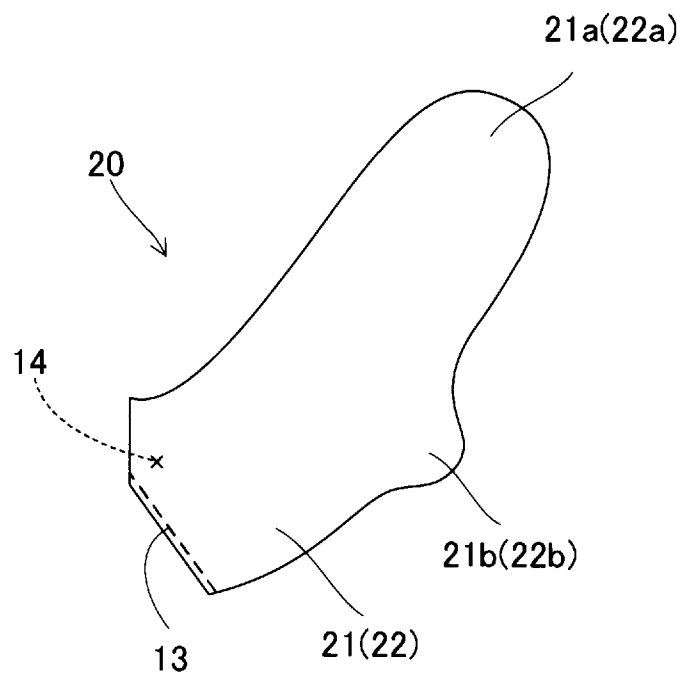
[図4]



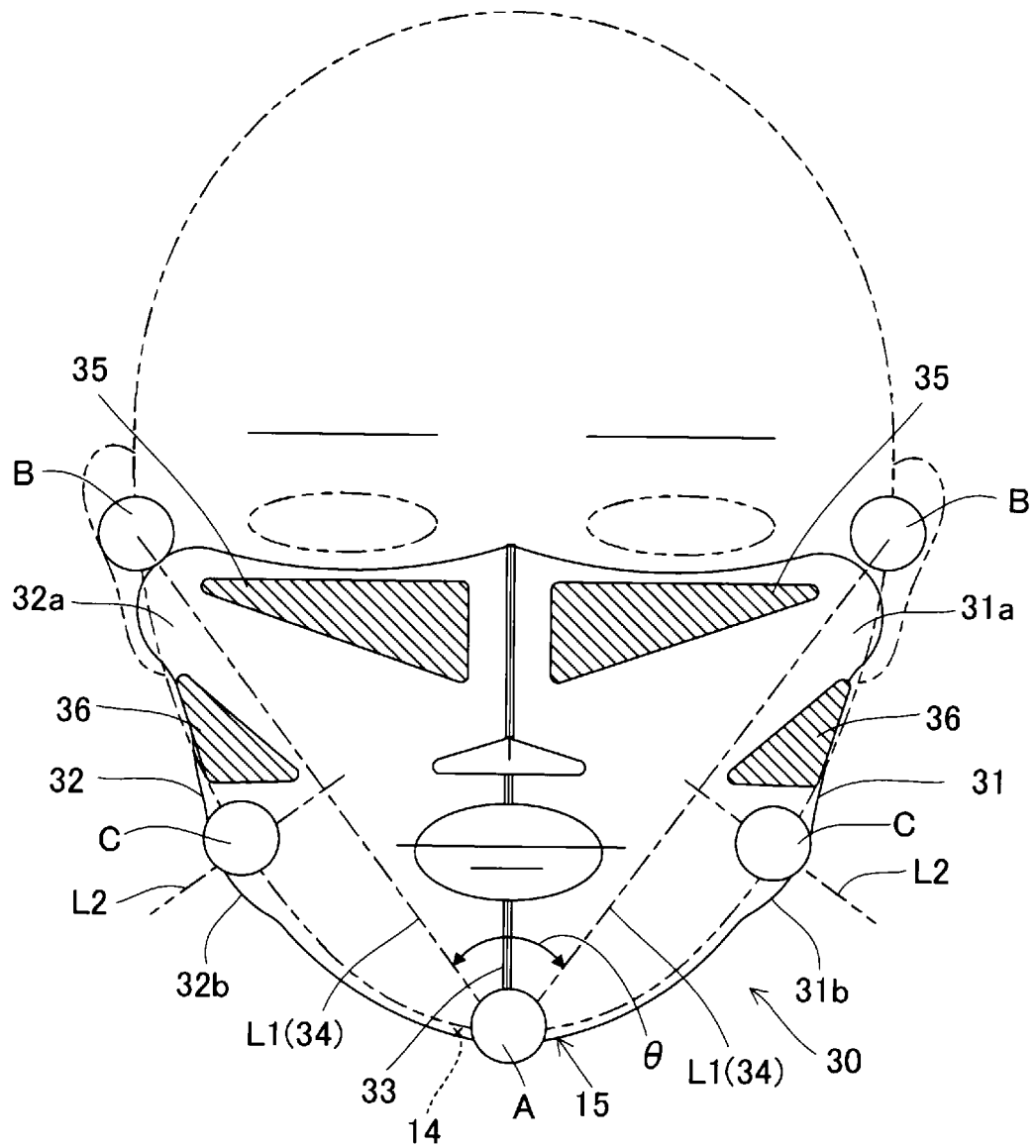
[図5]



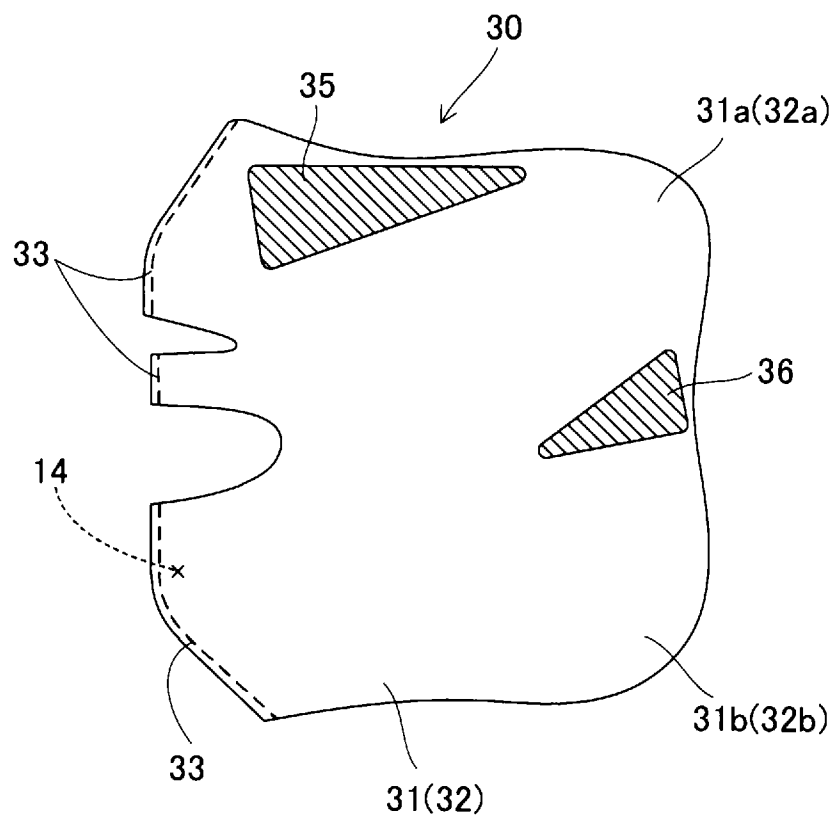
[図6]



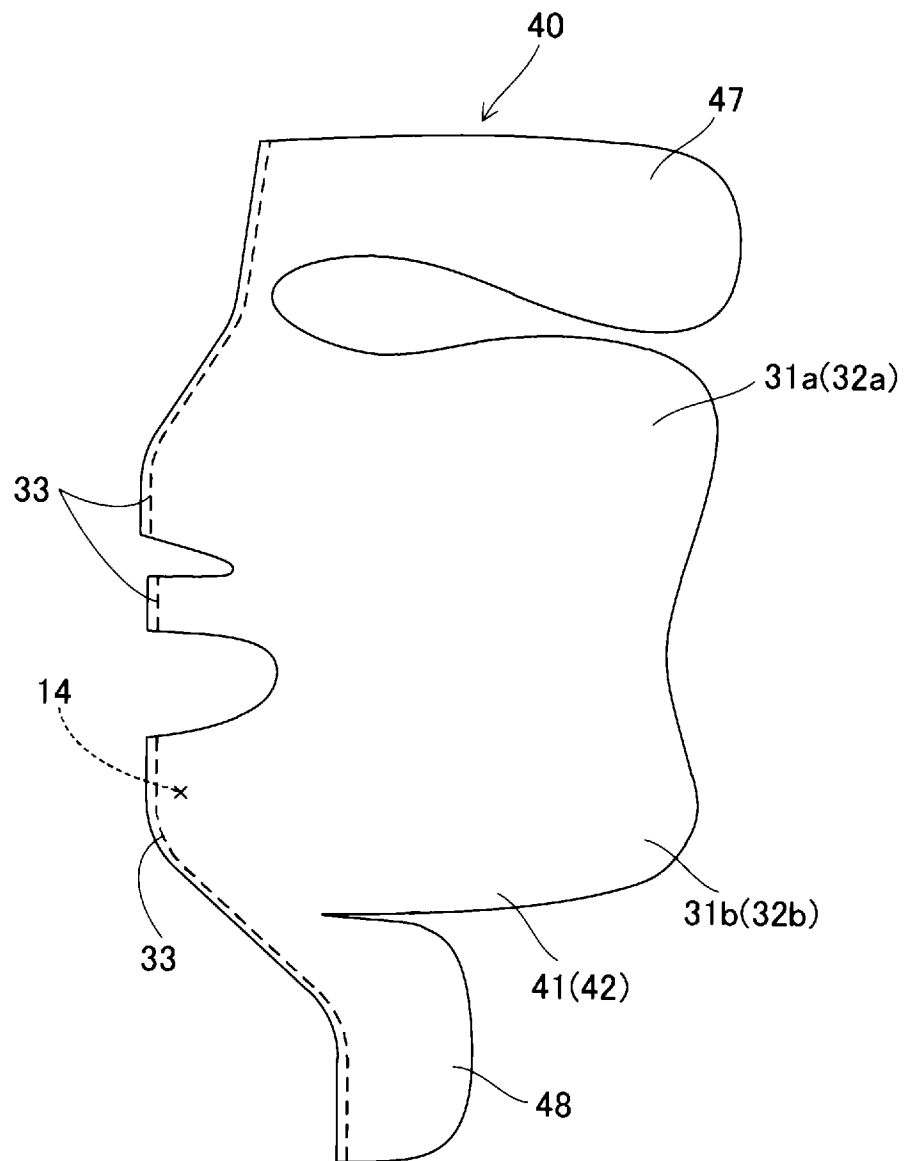
[図7]



[図8]



[図10]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2012/061199

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A45D44/22 (2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A45D44/22

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2012
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2012	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2012

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y	WO 2009/116118 A1 (Swiss Cell Lab Japan Co., Ltd.), 24 September 2009 (24.09.2009), paragraphs [0022] to [0025]; fig. 1 (Family: none)	1-7 8-12
Y	JP 2007-330329 A (Emiko AOKI), 27 December 2007 (27.12.2007), paragraph [0026]; fig. 1 (Family: none)	8, 11
Y	JP 2003-341 A (Shiseido Co., Ltd.), 07 January 2003 (07.01.2003), paragraph [0020]; fig. 1, 14, 15 (Family: none)	9, 10

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

“A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

“E” earlier application or patent but published on or after the international filing date

“L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

“O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

“P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

“T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

“X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

“Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

“&” document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
01 June, 2012 (01.06.12)

Date of mailing of the international search report
12 June, 2012 (12.06.12)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2012/061199

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2007-211371 A (Daiwabo Co., Ltd.), 23 August 2007 (23.08.2007), claim 1 (Family: none)	12

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (I P C))

Int.Cl. A45D44/22 (2006.01) i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (I P C))

Int.Cl. A45D44/22

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2012年
日本国実用新案登録公報	1996-2012年
日本国登録実用新案公報	1994-2012年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X Y	WO 2009/116118 A1 (株式会社スイスセルラボ・ジャパン) 2009.09.24, 段落[0022]-[0025]、図1 (ファミリーなし)	1-7 8-12
Y	JP 2007-330329 A (青木 恵美子) 2007.12.27 段落【0026】、図1 (ファミリーなし)	8, 11
Y	JP 2003-341 A (株式会社資生堂) 2003.01.07 段落【0020】、図1、図14、図15 (ファミリーなし)	9, 10

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

01.06.2012

国際調査報告の発送日

12.06.2012

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (I S A/J P)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

川上 佳

3 R

3332

電話番号 03-3581-1101 内線 3386

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	JP 2007-211371 A (大和紡績株式会社) 2007.08.23, 請求項 1 (ファ ミリーなし)	12